

令和5年度 わかあゆ認定こども園自己評価結果

1. 教育・保育の目標

園児一人一人に応じた教育・保育を一体的に行い、心身ともに健康で明るく、たくましい子を育てる。

■ 目指す子どもの姿

- げんきにあそぶ子
- あいさつのできる子
- おもいやりのある子
- じぶんのことはじぶんでできる子

2. 重点的に取り組む目標・計画

- 子どもの実態に合わせた指導計画の作成、保育の展開、評価及び指導の改善に取り組む。
- 環境構成の充実を図るために、計画的な環境の構成や教材の工夫をして取り組む。
- 家庭や地域との連携及び情報の公開・発信の工夫をして取り組む。
- 関係機関との情報共有や連携の充実を図っていく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	取組状況
全体的な計画、教育課程に基づき、子どもの実態に合わせた指導計画を作成して、P・D・C・Aサイクルを通して教育及び保育の充実を図っている。	A	・園内研修を通して評価の視点と指導の改善を研究してきたこともあり、P・D・C・Aサイクルを通じた教育及び保育の取り組みが意識的に行われていた。課題としては、長期計画と短期計画を結び付けながら具体的なねらいを定めた指導計画の作成を行うことである。
指導計画に基づいた計画的な環境構成や教材の工夫を行い、教育及び保育に取り組んでいる。	B	・子ども理解に基づいた指導計画を作成し、クラスの状態に応じた環境設定のもと、教育及び保育を実践している。課題としては、環境の再構成や実践前の教材の工夫、研究があげられる。
外部研修で学んだことを職員間で情報共有したり園内研修を通して組織的に共通理解を深めたり職員同士の資質向上を図っている。	A	・職員全体で、報告の内容を共有することができた。園内研修を通して同僚性を意識することで、保育や行事、園運営において組織的な取り組みが見られた。また、園内研修に全職員が参加できるようになった。外部研修も報告を共有できているが、実際に参加する機会を増やすことが課題である。
園と小学校それぞれの教育を相互理解し、円滑な接続を意識しながら、情報を共有したり連携をしたりして取り組んでいる。	C	・連絡会、園や小学校訪問、など接続の為の取り組みを行ったりハッピースローププランを通してそれぞれの教育を伝え合ったりした。今後の課題は、お互いの教育の相互理解を深めながら、子ども同士の交流の機会を増やしていくことである。
園の教育及び保育の意図を伝えながら、家庭、地域、関係機関と連携を深められるように情報発信の工夫に取り組んでいる。	B	・行事や交流事業を通して、保護者や地域の方々に保育の意図や営みを知ってもらえるような発信をすることができた。また、子どもの学びの見える化を意識して、情報発信の工夫に取り組むことができた。課題としては、今後も園の教育及び保育の意図を理解してもらえるように発信の工夫を継続していくこと、交流の機会を増やして連携や協力体制を高めていくことがあげられる。

※評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

4. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
全体的な計画、教育・保育課程に基づき、具体的な指導の重点を捉えた指導計画の作成し、計画的な取り組みを行う。	カリキュラムマネジメントに基づいた指導計画を作成する上で、子どもの実態や教育・保育課程の重点を捉えた計画の立案を研究して取り組んでいく。
環境構成と教材の精査と工夫の研究し教育及び保育の内容の充実を図る。	指導計画に基づいて、環境構成を行う為に、環境や教材の精査と工夫を研究していく。
外部研修や園内研修で学んだことを、職員間で共有し実践、評価して職員全体の質の向上を図る。	研修の参加の方法を見直し、オンライン研修や視聴覚メディアを活用して多くの職員が直接研修を受けられるように体制を整えていく。 学んだことを実践し、評価したことを職員間で共有していく。
家庭、地域、小学校との交流と関係機関との連携を図る。	園の教育及び保育の意図を理解してもらえるように発信の工夫を継続しながら、交流の機会を増やして連携や協力体制を高めていく。

令和6年3月31日

評価者

那珂川町立わかあゆ認定こども園

園長 川 上 清 美